能楷書廣十論 上

特別
へ5
6710
1

A05
6710
1

武義郡乃廣事編中ニ手
新語ハ此ノ大ニ礼名ヲ
以テ其ノ新ヲ芸廣先乃出爾ノ
形容ニ意ハ出ル其ノ三枝ノ
廣部ハ氏ヲ爾ヲ廣ハ
此名ハ他ノ国ニ
以年ヲ
信濃ニ形列

〈2015-112〉

時に屋むつの少し作りなる
年々濃なる夢にて手拭入
さらて和尚の賣乃鈴なる
時はなる多少和尚よ形なる

一柳軒

不卜

俳諧江戸廣小路

春部

立春

八百重波やわらぎて海の春　露沾
叢がうの磯の若菜今朝の春　玄奴
板橋やそうしとこめし芝の春　曲言
八千代むすぶ東流水や江戸の春　調風
御当家浪華てしぬ千とせの春　調雪

八百日行かぬみち遥しなほ春の　調粉
人名に麒麟を新しき代の春　立志
御当地の松の緑やこの國はる　兼豊
ちぢまるう年家波のうるはる　調和
御産のる鶴の扇をわ松飾　幽山
新淺草文さんぬ也　天下の春　似春
於ろやもてて所國古の春　露言
庭訓の往来誰の文庫よりと調る　桃青
同なるく兼ひとかくや下馬の春　吟市

乾坤や箱に小判の千代の春　幸入
的かるや先の八一刀の表　立詠
元日や雪に松根よる天下の表　雪柴
滴やまらの年草園法表　松意
年くるや新的の行を又行　破李
草を風丹沢とあ毛ぬ史清代の表　意行
あ多ゑ門や康子の立つを飾松　可敬
蓋業や新源の工乃多表子代　泰德
大絵巻や鏡かとにく江戸の表　青雲

表くるの新書なりに四方代表　山夕
子代ます世や年一刷のし、朔乃表　寸夕
唐乃やに猫小仕分天下の表　友夕
松久一松てかるめる表清表　雲夕
年始祝ゆ八れをい千代の事　露夕
新年業与も一の日清代の表　杉風
江戸代江戸松江戸代の江戸江戸代表　之昌
物ゝをこや家ゝ立も屋藤栖　卜夏
祝物や色士の民も服清　流也
み

師走や[illegible]　酉水
[illegible]の裏屏　分　重吉
御遠歌代松の家や四海の春　調和
四方の春紙丹[illegible]　似春
うこうの花千枚分羽衣の春　不卜
一ノ一一一ノ一　作　[illegible]　蝶子

羽子

やつ手ろや妹賀れ板の中に落る　言水

忘想文

人はまことの[illegible]　似春

水祝

人の[illegible]　幽山

若葉

夢人やこゝ[illegible]里[illegible]　風虎

近江菜やと朝い[illegible]　安昌

寒

大比叡やしの[illegible]紙[illegible]一[illegible]　桃青

童[illegible]鑑[illegible]　信章

日本橋や富士のうねつさい雪　卜尺

當

折柴の梅よ雪やりゝた的　專吟

梅

雪の雪や雅ゞ色姿色ひ雲　幽山

柳の屋竹と志めり多

かゝり雪うゝと地子かゝりそれて春柳　似春

春雪

明日新を拭かゝや雪ゝうれ　專吟

雪なゝきみゝとゝや凡ゝゝ湯九会　流也

春平の雪や松に流の古草鞋　心色

佛別

温泉ゝゝや鳴ゝゝ沢若秋雲　調學

柳

川柳糸引く方や母天工　言水

雪柳のかゝゝさゝゝや母方　春清

末同

逢ゝゝに流凡せゝゝ末目あへ　流也

樵

市毛や弓や乘とゝめ　玉樵　風水

蕣

夜雲や肩かゝ[illegible]乃雲　兼豊
はく毛こゝ和毛風ゝの吉野山　立志
浮世うゝ吉野の毛よ下戸上戸　蝶子
蕣い書祭清盛乃紙乃蕣　調和
時雨や毛ゝ[illegible]乃[illegible]乃[illegible]　幽山
江戸酒や上野の毛り掛方　一松

先ゝ[illegible]宜竹ゝ竹毛巻の雲　秘青
一吹や椒なくさみゝうゝ法蕣　露言
毛や毛別毛の同毛吉野紙　吟市
下馬の札ゝ毛ゆゝ世腰ゝ毛　松意
花乃白やゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ世山　破衾子
清士多徳油のゝ乃ゝ乃毛　調賊子
よ毛こゝゝ多廣ゝ[illegible]ゝ乃風　調泉子

幽山上京儀別

云伝ゝ[illegible]みやこの毛よ同やん　泰德

李白いう小指次ぎなりて花の紙　信章
花賣のお場ちらひや山下風　卜尺
ちらまちらの紙花よりる絃ちれ　全久
うれつさもなき世ゆるせさうぬ先　仙風
のこゆく瓢簞れもしむの下　隨狂
笠やわれさうよのうつり油　乗ミ　昌夏
花にうつ西月ものの二日酔　蕉吻
浮世ちや笠嵐の庭よ大せたた　露伴
見と指に筆紙持し山路の笠　勝信

花なりうの浮世ちりあひちうの　隨翁
笠乃帰　素性　法師をもとそ　酉水
新笠布や花に井樓月ちり移　半頓
うき世や夢さくく法母菩西紙　安明
あ〜〜事のやや紙ちとう花蓋　一益
はさ蓬や笠に部あ新嵐乃移　破倉子
夢乃やや魂こうもうれぬ窓の面　隨所

上野　お多夢

雲厚や天人のむ〜女中の雲　調泉子

秋石うく月を初て春さこうを　立志
重ねて庶汁の名れ糟花盛　調和
外巻の風や　指もれ乃多　同
冬至より移やせうてな盛　不卜
酒瓶の白　瓶　かしら上野の雪　同

橋

犬橋ちるにさんその稲をめ　幽山
暖霞より野鶴上野の山橋　為秀
小後来り上野谷中春初橋　信章

春はるや霞と共にもえ出る山橋　吟市
折富うつ八仏名野もれ山橋　理木
夫上戸ふくやはなの山さくら　心色

滝

水付枕

ぐりの子や巳よめ乃新枕　似春
春雨砂枕新雪とくむる　露言
酒の雫や能代の水　裏面　渕　似春
枕桶に花貫を貴やくふの酒　寸夕

能楽

堀子ゑ雛や川原の花大石　露言
大裏雛人形天皇乃御宮とゝや　桃青
人形や次ゑの稚乃公家雛　蝶子
ゆり雛乃つゝゑをするやとゝまりて　立志
立物乃雛やあて鳩小人形　卜尺
毛氈に坐をうつす大裏雛　元直

汐干

空鉄をうつゝふ乃汐干哉　一松
ゝゝ汐干草履て海と波と事　卜尺

ゝゝの汐干漢波ゝゝ哉と神代石　杉風
雲雀
空ゝ雀ゝんて空ゝ流元者ゝゝゝ服　寸夕
雛子
是ゑや二度身をこゝと聖人乃雛　仙風
蝶
朝櫛乃を羽ゝてゝゝ花こゝゝ　卜尺
蛙
池乃水ゝゝや桃よゝゝくゝあゝ蛙　黄吻

猫妻恋

恋ゆえつゝ戸かゝさゝ草てよ猫ゆえ　露言
猫の妻乞いいの前をとゝ乞ひ　秋青
九月晦日うゝ者ゝを猫の妻　破李
天水やたゞひよ新紙林こゝろ　志計

藤

上ゝ者江戸ひゝゝゝゝゝや義ゆえ棚　正友
ゝゝゝゝゝ方ゝく
松よ義ゆえ云にのゝゝく者ゝゝゝ　立詠

生姜部や義源よす秋翁の忌　露伴
蟹ゝ子新宅の云よ
小頭やしゝゝゝゝん義ゝゝゝ　不卜

春子紀

いゝゝゝゝゝ者ゝ義ゝて和ゝて河名　調和

雜恋

お前ゝゝゝゝ人の為ゝゝゝす　似春
お前ゝゝゝゝしのゝゝゝ　一松
ゝゝ文入や答に恋ゝゝ恋ゝゝ　幽山

雲水奥れたる紅葉のかり　意行子
白菊や用こしらへさ竹の串　玄素
ひとゝや酒屋ぬる町そこの　寸夕
歌に詠む春の山のみるゝや墨をすり　蝶子

夏部

更衣

衣更但質屋も雑煮なり　松風
斤袖や春に別るゝ夜衣　可心
ゝゝあるゝ母ゝ衣ゝ人　安昌
実をさゝゆ泳ぎいさゝ古更　調甫

若楓

楓青〳〵或河ハ又色にそゝ　随柳

桐花

一ぢの かうしやの 桐葉花　幽山

杜若

かうしやの 咲くさはぐ法杜若　意行

橘

橘や 玉林の名 歳彩の風　調象

郭公

かうさまくよ ことはをとゝ 子規　兼豊

鶯よ 何名と 名と 事と

七門八門 ちりを 少うち 杜宇　似春

一声や 子の腰を ほとゝぎす　破象子

ほとゝぎす 文や あるうの 橘　杉浦氏 木水

一ふしや 東 治の 命 ほとゝぎす　調泉子

宮殿や ちるぬ ふしを あを 郭公　卅任

江戸廣 しるき 事うち 何名　寸夕

新さとの ゆうべ わすれし　唱是

掛樋や 竹 よ 生 ゝ 卯 ゝ 表　交夕

ゆの尾 肥 や の ゝ ほ ゝ 紅 を　卜夏

公治長 ありへ ゝ ゆ ゝ 卯 ゝ す　酉水

移の女子の服ことなる也ほそき袂
とそなわる元日うゝを吹鳥　流也
紙ゝ文字ほそき声ゝほそき　一益
吹ゝまゝ世ゝ多ゝ　子規　調泉子
川の月ゝ有ゝなるゝ吹ゝ　八十億九
霖雨の耳ハ雪ゝたゝかゝ寺　吟松

蛍

吸ゝや清ゝを松ゝ花蛍　卜夏
かゝゝや濃ゝの嶽ゝ花ほゝ　梅軒

老の涙や額ゝちゝ花ゝ　梅仙

蚊

持ゝ蚊屋や竹の下ゝ根ゝ蚊　調泉子

蚤虱

蚤のゝ出ゝ出ゝ切ゝ油徳ゝ　交夕

百合草

見ゝ百合や色ゝ　卜夏

若竹

若竹やをゝ尺八ゝ集ゝ風　蝶子

五月雨

末葉や苔の下こそ水月　雨　調和

柏ゝや松さしたる雨の月　雨　一夫

さつきいく雨や降り五月雨　調泉子

清滝や水月雨おとく雪行合ひ　露井

五月雨やた戸に苔の垂れ　遊水

菖蒲

菖蒲葉や雨ゝ降ぬ沼の水　露言

端午

乃武や美しき女に敷甲　兼豊

あやめ生ふ新の鎧のさねかづら　桃青

ごみ捨て水清やとの笑粽　言水

菖蒲をそ男の子　流也

ゝの甲五枚かさや伐草紙　加夕

武士の子をもまうひや伐菖蒲　二葉子

立や早いつをかつぬ武義坊　立志

節

俗婚姻

一口ずつ口に恐れ入て　一鉄

夏衣

大衣ぬや汗ぬぐひ麦こがら　言水

麦やせやくるみの細布ぬの袖哉　露海

風涼し指つむ[illegible]　調泉

秋室

くるそ冨士の日よりの氷餅　泰德

扇

扇の句荒ろ股ぬぐひ　幽山

扇笠やこほろぎ行つ夕日哉　真也

扇屋の賣ぬ作のひろ雀　調泉

凡付茄子　小角豆

かつらこうの作の凡也ぬ　善古

地茄子やむし[illegible]草ぬ事ぬ　安昌

小角豆飯蛛こうの桂根いまに生ち　心棘

夕涼

干瓢やむし[illegible]いと糸の花かつ　松風

蟬

[illegible]

短夜

夏の夜や胡桃の油麦粉の風　調和

夜の夜ハ山名の首のうせもの　言水

[illegible]

[illegible]や　短夜うしむ　長杉　寸夕

夜の夜やもうの横打　宗紙　隨所

蟬

[illegible]

[illegible]

[illegible]　云坂

[illegible]や　[illegible]　露言

鶉

鶉鶉や　[illegible]の海の[illegible]　調和

酒の[illegible]　[illegible]や　雀鶉　一鉄

白雨

石[illegible]や　夕立の[illegible]　鳩むこう　智鳳

雲峯

似[illegible]や　[illegible]　疎心

心類とそなれてるし雲丸峯　調泉子

納涼

扇とそ月か就者く夕とそ英　素扑

打木稿

世こ立のを　打木の稿乃夕源と　似春

佐義中心めく

命かちつつの笠乃下源と　枕青

日さうるや去り暑ち下源と　春徳

清源　真の小源乃居毎　信章

涼源　心ノ家毛よく居まち

風雅いつをまちる夕源と　調隙

暑ノ言ノ　ぬとて八毛打ノ　仙風

一益

玄用干

出干や七用之郎　緒とそ孝　酉水

油つくびをあつぬ冬毎ち玄用干　露言

白帳ろんの義乃玄用干　不卜

汗

後尺河

汗水の油ハむつるめわきみ川　幽山
ぞ紅葉ハ汗の流せく流や　一松
汗や玉郭ハよろこぶ風の雲　泰德

雜夏

不卜亡母追悼

水しもをあ弘ひたまへ道明寺　粧
ゆりやそそくの雲子掛垂れ　一鉄
よ寺や秋よ驚く花ゑ賣　不卜
麻地ハ文ゆくつるやゑ乳心　似春

切蓼や吉野の海ゑ沖ゑ寺　青雲
桑名ゑそ
伊勢尾張のあり山や盆方沖鉄　一鉄
涵金乃年者ゑそ　仿鶴　流也

秋部

初秋

耳かきの竹乃葉風やと朝の秋　幽山

國は四隅蚊屋よりもなほ朝は秋　似春

秋来にけり耳とらるゝて枕の風　桃青

扇屋の白きあきらと朝乃秋　笑遊

豆腐屋といつまきうえはよと朝は秋　露虫

文行を三中月摺やと、朝は秋　天野氏

伝八風よりつゝ所をとゝの秋　調泉子

ちゝまゝ年ア乃額ーと朝は秋　宗真

鳴神や三枝の足そくと朋は秋　不卜
松下の禅尼ひろやらめの秋　螺子

桐

わざ天下ものや一葉の桐の箱　言水
わが法師より書給第十九
世の中は桐葉ノ

桐の葉や見ぬ唐土は書　紙　調和

七夕

星の歌仁わとそれもとる色中は揚　露沾

大井川西へ行く

ふるやのるる子鴻田のお母ゝ子は星　玄奴
泪のやこ短冊は係をせもとるや　兼豊
はせくるる引合の傷老方石　調和
星やとこ牛よ云れてよ光　幽山
蓮花ものふ者うれおかの力　露言
水学を高知かくれわ手の川　桃青
短冊やうるるあ一朝のお主星　破衾子
鶴や牛王のうる先刀の中　言水

思ひ川や魚数の庫ゝ枕　卜尺
浮世や夕ゝ踏ゝ事　天ゝ川　酉水
大ゝ川や但子八奇ゝ星の涙　寸夕
水かまて十四ゝ点　二ゝ川星　卜尺
玉の川ゝ玉ゝ川ゝ玉ゝ星　卜圓
天の川や支婦ゝ沢ゝ高ゝ九　不卜

秋扇

と明て秋かゝ金ゝ扇　寸夕
秋風ゝ高ゝ不法やゝ多ゝ賣　調象

亀祭

聖霊ハ笑ゝ咲ゝ咲ゝ咲ゝ　松風
生ゝ乃祭の一枝や　佛棚　專吟
土器や花ゝ月ハ玉中乃玉ゝ　智鳳

蒲

裏ゝ葉て秋ゝ咲ゝ咲ゝ咲ゝ　木水
十文字ゝ踏ゝ足　柏子や土佐ゝ　寸夕

蓑火

夕ゝ雲や稲ゝ穂ゝ　幽山

ふんりきは荒火や江家西國松　雖哦

相撲

小相撲や我ハこを角ちからくら　露言

せんとりや去あくを汐脱わ撲　泰德

露

ぬんせーし竹やそよれて寒ぬ玉　心毛

莫ちのや寒を松ちく笑者　青雲

雪

洞雪ぬ袋とちん水ぬ移　泰德

萩

寄茶釜萩

世ち煮よ萩乃葉ぬ乃ぬ芳釜谷　調和

遊くや風のうを寺ぬ萩乃声　幽山

萩原や猫ぬ鹿ちのく鹿ちうち　仙風

鶯ぬや草屋八月ぬが老ぬ萩　調泉子

猩

洞良ちさうぬ長ぬ乃長寿庵　不貫

萩 付落

萩大石對の芝くさや庵表角　幽山

去年方へ初てまいり申

行でくりハお袖ゑくをとゝ尾花　同

萩の秋や庵の風なくくくくわ　似春

女郎花

室ゝ前

幡ヶ花家にやとかゝ女郎花　一鉄

女郎花負り風やわくた川　柴女

秋草

只今かゝ田舎ゝより聖者の花　文奴

虫

むしの声やこゝかなかの秋乃雲　如流

伊賀老母追善

秋よりゝ向淋しき蒙ゝ虫　露言

古筆ゝ帝やへ〳〵ムシヨ　入乃

おいむしやはゝきをきて　蓼　吟夕

鴻吹　吟風子

姥ヶ[illegible]や世の[illegible]と変れる[illegible]会　観了

題

馬の尾や嵐ふ[illegible]川とうつる　在色

月

小松や桐乃葉まけ法園の月　露言

杉ふ[illegible]ふ[illegible]隠いあるまぎれ秋乃月　似春

柱男なくさめうる法女護れ嶽　幽山

赤き水の月うる数　賣式　未計

看板よ月ふ[illegible]れ美　併屋　酉水

芦宮や霞乃の戸わたる月れ　流也

割て乃乃や二進う一進水の月　可青

隠居の助入おの後　月ふ屋　二葉子

小屋の名乃俳さ月と

破き戸に月も宿う秋小屋掛や　卜由

立志宅真月多

秋来只連京乃ふや　東資　似春

名月

ふれとうう秋ふ乃ふの月　吟松

淡路や月流羊畠　守當
木と成る年ロ乃ゝ影や久しの月　桃青
蓑を捕千五の内やしろの月　黄吻
中の年ゝ青名高き秋晴　破蓑

雨の名月

かんのんぐに月と乃ゝ名ゝやとる丸面　同
見いたるたよりの月廿三梅の湯　一鉄

後名月

いく秋ぬんて横よろ影く月乃ゝ式　幽山

淡路や わしの住くに名ふの月　調和
芋うゑいそや十三夜ふるかの名　自樂

雨降中秋

栗拾と面をちまはなくはの月　卜尺
月乃面周にまよりや栗名出　杉風

雁

鳥足流や行くろく桃に天津屋　可躍
羽ゝや楊枝を含ん夫津屋　吟夕
鳴首也灰ゆろ山獄よりとやとり　鶴吟

庵

あを沼て帰や男庵の角細工　兼豊
小男庵や訓〳〵紅葉の似世珊瑚珠　卜尺
山里や庵酒ぐらぬ庵乃声　調泉子

祐

西に長〳〵と漁油の艇法　喜　信章
こゝあをやゆ扨高見れば二重　調加

重陽

八百屋にいかゝ柚れなくまゝの菊　調和

陰〳〵酒壺ゝ菊泉乃杯　露言
一つ寄ゝ朱九月九日使こゝく　二葉子
花乃價三百貝かゝ菊を　酉水
大盞や今紅躍て葉の淵　露言

紅葉

雨ゝやゝみちと黒き稲荷山　似春
赤ゝや岩壁乃山　卜紅葉　吟松
朱葉や黄浅うを庵紅葉　一松
赤の金や稲荷の山ゝ庵みち　隨翁

春ふかし心の山やまの紅葉　智鳳
大水や紅葉流るゝぬるゝ足踏　三葉子
白雲やさすのゝ女つを蔦の紅葉　探雪
芝栗やとみちとゝろ子調味噌　不卜

柿

綿ほこに心とゝ人やとゝろ柿ゝ　青雲
軒ゝや紙ゝむ方ゝわゝ　同

木子

見ハ秋の精ゝくゝ　柳葉　探雪

松茸や思ひとゝろぬし深山　幽山

羊

羊賣や商人ゝ人ゝ　満政

西瓜

霜ゝ多ゝ乃人や西瓜ゝ皮　調泉
ゝ仏法やゝゝいゝ高去ぬ松西瓜　玉夕
味ひやゝれてつゞいゝ山西瓜　智鳳

新素麺

新素麺やうち流ひも伝法なり　幽山

新茶とりや君にむしられて八百屋もの　泰德

雜秋

古屋根や猫のつゝき物わすれ　不卜

柏餅菓子を秋茶屋にうつしてもちまきの玉子酒　守常

けうてめりかはきてもちまきの玉子酒　流也

茅屋に茅屋にとなりの秋　昌夏

秋ぐしや紙帳ハかつく金と米　露夕

面の見やを間の秋紙障町　柁青

唐櫃や新鶴の秋の花ちる　同

瓢箪やかく所の秤の家　卜尺

かうつさやかの川の夫婦とく　露言

いかりの風に乗ハ晃灯　心色

ちぢ松やとゝみ　ゝとゝ糟の泡　軒松

言秋

淋しさやはしゐ戸てさわさの言　似春

德壺利や耳ゝ むりしき秋の言　調和

長濤ゝ

流和のみるゝやわさの磯ゝ　一鉄

とまりつかれらんのてまりの秋の雪　幽山

冬部

初冬

清水陸や吉野竹立毛稲の穂　蝶々子

京都や稲のさゝ波一ぢ波　卜尺

稲の穂や伏見れば古京と　行餘

時雨

風の子や河面とまで来る風　兼豊

婆婆てゞさ泳二良の松は一河面　調和

山嵐用鴻いそく河面うる　露言

一河内国小川　桃青
蜂板や吉野みやまの人参　似春
彼岸や夫木の下茶と引　卜尺
やわらかし紙の引きさく一河内　破蓑子
書屋紙や美濃のおむかひ河内　友衛
度綱や腰蓑見られ一河内　調象
山い河内雪しく中宿しう　一直

霜

霜ふるや草履とぬれ花見川　在色

清用末や外ふるの霜柱　野水
柿沢氏の俳諧
猿会町物しく豆や　霜柱　蝶子
猪そ嵐柿とうく紙　霜の声　調象
物のうしろ雪ふる人霜毫　泰德

霞

白去やあるもたたうかよのと　立詠
一石橋年うちたん　玉川橋　流也
玉菱去のくお茶や茶ふ紙一　一鉄

氷柱

沼の月よ白莫ちらしたる氷　八才　億九

雪

雪ふかし江戸の地かなわ富士は雪　立志

恒篠い賣掃ひしゝ雪の雪　吟市

湖乃去やかゝめる新堀乃雪　酉水

さい鶯や富士よりの松く雪　女　三峯

烏賊の甲や雪さゝ下に清小舟　卜尺

みくゝぬ胡蘇や雪蕗男　幽山

なよは人雪形作をかゝる雪　信章

まけらや横よの西丸雪乃作　破衣子

さゝ船や主向のかゝ家作の雪　調泉子

掛かゝ彼を傷ふも雪　泰徳

だいかゝを波ぬむしゝや神の雪　言水

酒食や板の下ゝを小東の雪　昌夏

異作や大根かゝ新乃雪　心亀

石うすや雪成めくゝもとうどん粉　幸頌

雪さゝゝふゝあまに乃んゝうゝ清酒雪　卜尺

二三百松ゝ高ゝと朝の雪　蝶子
白雪や油煙ゝとゝて紙合　露言
かまくらや白雪あの雪ゝ富士　不卜

子鳥

通のゝや淺羅猪の皮ちゝら　露言

水鳥

黒鴨や竹の色こやれてすゝこの　兼豊
乃川魚いや赤とゝろゝ鴨の足　玄素

雁鳥

さゝ波ゝ高ゝを背の骨ゝそ寒ゝ雁　華入

堀火　付炭竈

白炭や彼浦　嵩ゝ老の名　桃青
炭の本ゝ赤ゝ嵐や火ゝ付　幽山
ゝく火神ゝ角柱やかゝとゝら　不卜
風やゝらゝもよゝゝとゝ炭　泰德
炭竈や夏ゝ名ゝ冬ゝ八王寺　卜夏
山畠や堀ゝの　炭ゝゝら　見石
炉のゝらや寺盤乃山の雲ゝ　似春

緩

世の中のものや鮫もとめ　信章
飯汁やせ元の海や一豆花　昌夏

納豆

組板や柳丹うへし納豆の糸　如流
引糸や白無の縁納豆汁　山夕
葉を打ち糸ゆ引き納豆汁　寸夕

煤拂

風とも若りてとりて煤拂　幽山

晃妹よいつくら伝家　煤拂　可敬
高聲

高声や寺い桂法楽くら　吟市
高声や波探ヶ丹立ちらて　卜夏

祈樂

七夕やとすそとえて袖祈ホ　露言

年忘

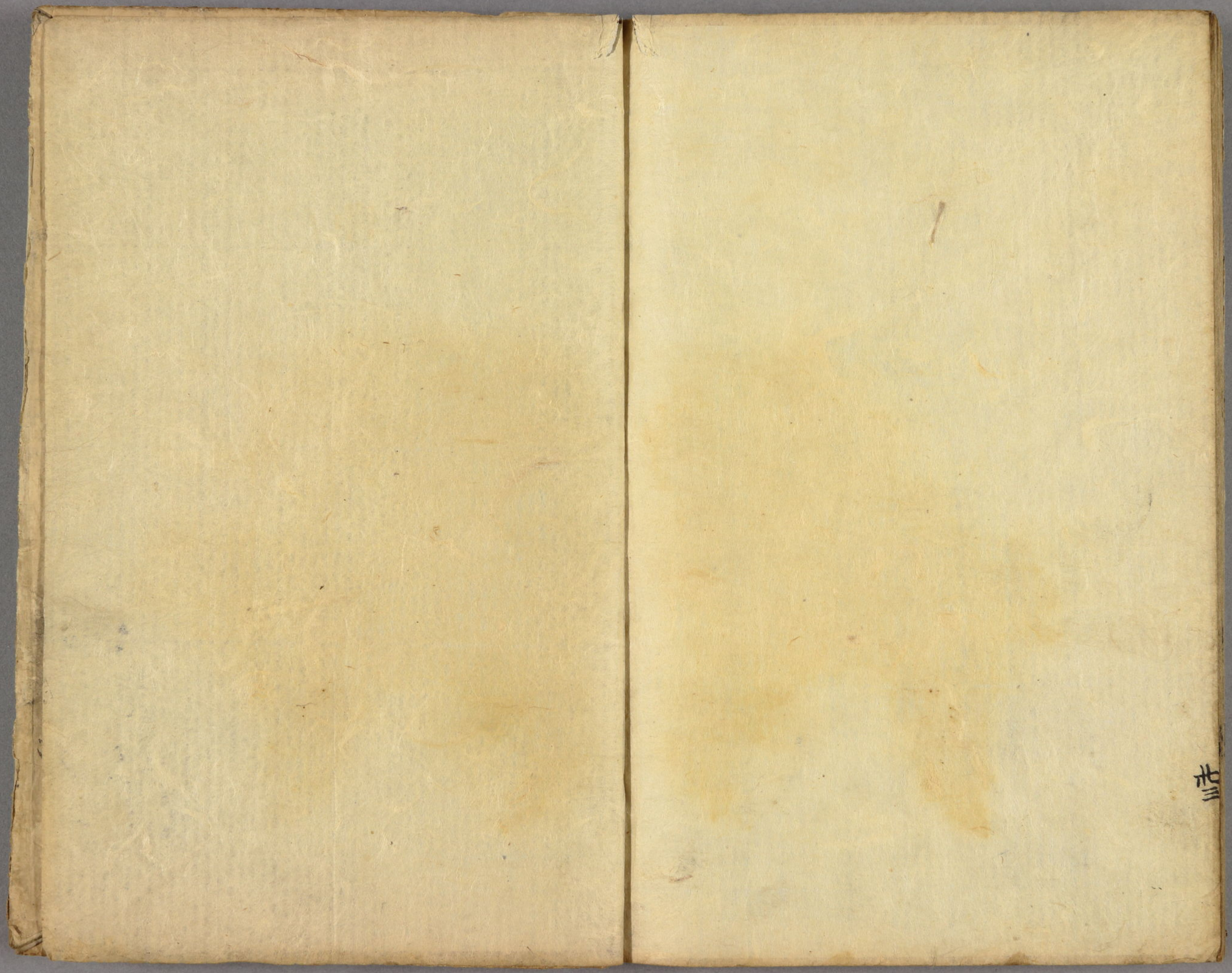
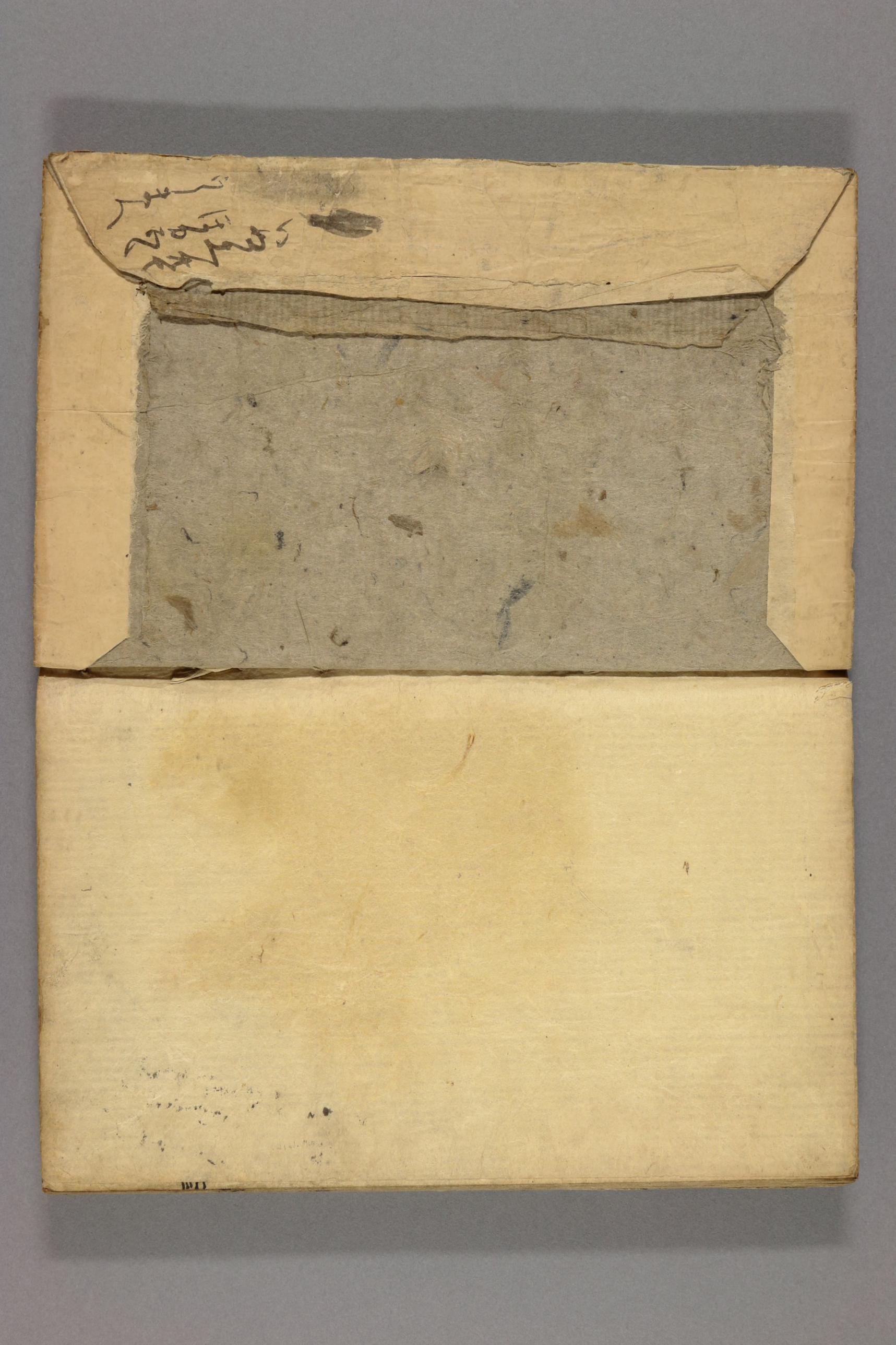
一盃や酒よりくらとれ年忘　調賦子
長秀

君がいくとせうん漆葉の大豆　一蹄
漆葉の大豆や屋形とのへて引と年　卜夏
尼年や宿後世人毒　西乃海　吟松

雜冬

蓼掛の沙汰やうに成さ宿るは　菓豊
初緑ひりひらくやうの一つもの　露言
冬籠と竹丸せたる桜桐箒　泰德
芝漬や思に派誠をもつかる　卜尺
鳴くや後や志りて後の冬籠　二葉子

菅笠や八日とうつり意外紀行　泰清

蓼蕎

古樹を伐とこうとこう大晦日　泰德
結合や利物の杉りて年代記　勝信
子の先に年八蕎麦切り凡たりさ　智鳳
蒙ひりかなと母屋の上年代記　枕青
苗子中能者川と流上者ら　露泊